

2016年度 世界展開力強化事業
中南米との大学間交流プログラム（短期留学） 帰国報告書

生物産業学部・生物生産学科・3年 42214077 中村彩乃

派遣先：ブラジル

期間：2016年8月26日から2016年9月16日（3週間）

訪問先：サンパウロ・ピラシカバ・ベレン・トメアス

〈目的〉

南米地域の農業について学ぶ。

ブラジルのアグロフォレストリーを実際に体験し学ぶ。

〈現地での活動内容〉

今回のプログラムは三週間の期間で、一週間ピラシカバ、一週間トメアスに滞在し、一週は移動日という日程でした。

ピラシカバではサンパウロ大学で授業・研究室見学・学生交流などを行い、トメアスでは農業研修・ホームステイをしました。その他に農大会館で農大のOBの方々へのあいさつ・サンパウロ市の観光・アマゾニア大学への訪問・お墓参りなども行い、盛りだくさんな内容でした。

○サンパウロでの農大会館訪問○

サンパウロでは農大会館に訪問・宿泊し、農大のOBの方がたくさん集まっていたき、全員でご飯に行きました。そこで昔の農大の話や、ブラジルに移住してきたときの話など貴重なお話を聞かせてもらいました。翌朝は朝市に連れて行ってもらい、ブラジルの食べ物や果物についていろいろ教えてもらいました。



果物の数がとても多く、種類も多いし品種も様々なものがあり、中には日本の品種もあ

りました。アテモヤなど今まで知らなかった果物がたくさんあり見て歩くだけで楽しかったのですが、試食させてもらえるのでいろいろなものを食べる事ができてよかったです。

ピラシカバに向かう途中で農大の先生のお墓参りに行き挨拶をしました。

○サンパウロ大学 ESALQ キャンパス○

ESALQ では農学系の授業、ポルトガル語の授業、研究室の見学、学生交流を主に行いました。

① 農学の授業

農学の授業では農業エネルギーの授業やシュガーケインについての授業、カーボンサイクルの授業を受けました。授業は全て英語で行われ、理解できない部分は篠原先生に訳してもらいながらの講義でした。シュガーケインについてはブラジルならではの、普段馴染みのないサトウキビについて、栽培の研究内容を教えてもらいました。どこの国でも、作物の収量をあげるための研究をしているのだなと思いました。

②ポルトガル語の授業

3時間の授業が2回あり、サバイバルポルトガル語を習いました。先生1人に対し学生が3人の少人数だったのでそれぞれが理解してから授業が進んでいき分かりやすかったです。発音からはじまりブラジル式のあいさつや日常で使える表現などを学び、私はこの授業で果物の名前を覚えたので、レストランでフルーツジュースを頼めるようになりました。

この授業を担当してくれたクリスティーナ先生はとてもいい先生で、完璧に会話ができるわけではなかったのですが、みんなで頑張って伝え合いながら授業をしてとても楽しかったです。



③研究室見学

研究室見学では、カサーシャの醸造、薬草の研究室、農業経済の研究室、昆虫の研究室など、8つの研究室を訪問しました。それぞれ専門の話をしてもらいとても勉強になりました。私が一番記憶に残っているのは薬草の研究室で、広い庭にたくさんの草花が植えてあ

り、それぞれの効果や使い方を一つ一つ丁寧に教えてくれました。聞いたことのない草花もあれば、日本にもあるニラなど様々な薬草となるものがあり、とても興味深かったです。



↑薬草の研究室の庭



↑昆虫

昆虫の研究室では、農薬に対する昆虫の抵抗性について研究していました。どの薬が殺虫剤として効くのか、また既に製品になっている薬に対して虫がどのくらい耐性を持っているかを、虫をいろんな地域から集め試験していました。日本ではこのような試験は大学ではなく県などの試験場でやるので、ここでも日本とブラジルの違いを感じました。

④学生交流

今回の学生交流では、日本や農大への留学に興味のある学生が集まってくれました。キャンパスツアーや夜のシュハスコ、サンパウロ観光など、同じ学生と何度も会う機会があり、仲良くなることができたと思います。日系の学生も多く日本語を勉強している学生もおり、お互いに語学の練習になりました。ブラジルの文化をいろいろ教えてもらうことができ、よりブラジルを近くに感じることができました。ブラジルの学生はみんなフレンドリーで陽気で親切で、とてもいい人たちでした。

サンパウロ観光では、ブラジル日本移民資料館に行きました。実際にトメアスに行く前にここで日本人移民の歴史を見て予習しておくことができよかったです。



↑学生交流・みんなでシュハスコ

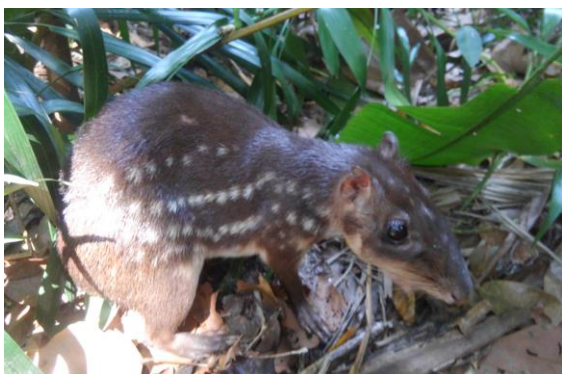


↑ブラジル日本移民資料館

○ベレン○

ベレンにはトメアスとサンパウロの移動のための宿泊だったため、多くは見ることはできませんでしたが、UFRAの学長に挨拶に行ったり、町の中に残る原生林の公園や港の跡地の市場などに行くことができました。

原生林の公園では変わった形の熱帯の植物がたくさんあり、またサルやクチアなど動物を沢山見ることができて楽しかったです。市場では食料品が山のように積まれていて地元の食べ物や食文化をみることができました。



↑クチア



↑市場のナッツ

○トメアス○

① 農業研修

トメアスでの農業研修では、農協訪問、文協訪問、ジュース工場の見学、農家訪問、ホームステイ、という内容でした。

トメアスのアグロフォレストリートは、森林が再生するプロセスや森の生態に学んだ持続的農業という意味でした。私は今までアグロフォレストリートとは森林を再生することが目的だと思っていたのですが、アグロフォレストリートはあくまで農業ということでした。

農協訪問では小長野さんにアグロフォレストリーの考え方や日本人移民のトメアスでの歴史、などを教えてもらい、文協では文協の目的、役割を教えてもらいました。日本の文化を伝え、周りのつながりを深め地域活性化すること、経済的に安定させてみんなの生活をよくするための活動をしているということでした。

ジュース工場では製造ルートを見学させてもらいました。ジュース工場のおかげで多くの雇用を生み出すことができ、トメアスの町の活性化に役立っているのを感じました。クブラスから作る新しいチョコレートのクプレートの試食もさせてもらい、美味しかったので、ぜひまた食べたいです。

農家訪問では、いくつかの農家さんの畑を見学しました。同じアグロフォレストリートでも農家さんによって栽培している作物の違いや考え方の違いがあり、それぞれのポリシー

を感じました。日本で畑といえば野菜が土から出ているところやハウスでの栽培をイメージしますが、今回私が見に行った畑にそういったものは少なく、木がたくさんありました。日本より土地がとても広いので農業の規模が大きく、農家さんだけで作業するのではなく労働者を雇っているところが多かったです。



↑コショウ



↑高松さんの畑

②ホームステイ

9月8日から9月11日までの4日間、私は坂口さんのお宅にホームステイさせていただきました。このホームステイ中は畑の見学やトメアスの町の歴史について教えてもらったり、原生林に連れて行ってもらったり、つぎ木やアンジェローバも油を絞る体験をしました。

坂口さんの畑は他の人の畑と違い、同じ種類だけでなく、様々な種類の樹木や果物があちこちに散らばって植わっていました。30種を超える植物を教えてもらいましたが、ほとんど知らない作物でした。カカオやインガなど木に実がなっているものがあると試食させてもらえたので、未知のものをいろいろ食べることができました。



↑インガ



↑カカオ

森のような坂口さんの畑にはカカオなどの収穫物の他に、マホガニーなどの木材になるもの、ピローラやピキヤなどの、果実と木材としても利用できる樹木もありました。

成長に時間のかかる木材用の樹木を育てる横でカカオやコショウが育ち、数年後に育った樹木が木材として高く売れる。その樹木もカカオの日陰になり役立っており、それぞれの植物が互いに影響しあいながら出来ている畑でした。作物によっては毎年出荷することができないものもありますが、そんな年はほかの作物がとれるので収入がないということ

はない。植物や土地に負担をかけることなく常に収入があるという、まさに持続的農業でした。

〈目的達成度の自己評価〉

私が今回ブラジルの短期留学に参加した目的は南米の農業・アグロフォレストリーを実際に体験するということでした。今回の短期留学ではこの目的は達成されたと思います。

南米の農業については、サンパウロ大学では講義や研究室を見に行くことで最先端の農業技術を学び、トメアスでは実際に畑に入り、現場の作業を見ることができました。今回学んだ事が全てではないですが、南米地域の農業について理解をいままでより深めることができました。

南米の農業と日本の農業を比べることで、これからの農業について今までとは違う視点から広く考えられるようになったと思います。日本では学ぶことのできない知識や考え方を学び、世界の広さを感じることができた3週間でした。ベレンにはボランティアや仕事をしている日本の方とお会いする機会が何度かあり、実際に世界で活躍している人たちに会うことで自分の将来を具体的に考えるようになりました。

今回の短期留学の反省点としては自身の語学力の低さです。ESALQでは英語で会話していましたが、英語の通じないところはポルトガル語でした。私は英語が得意ではないので、授業も篠原先生に訳しながら受けていました。今までの海外旅行では身振り手振りで何とかかなりましたが、授業ではそんなわけにはいかず理解できる部分もありましたがもっと英語を勉強しておくべきだったと思います。ポルトガル語は日常会話も怪しく、挨拶やレストランで水やジュースを頼むのが精一杯でした。学生交流では身振り手振りや翻訳アプリを使ったり、訳してもらってました。それでも楽しかったですが、もっとスムーズにコミュニケーションがとれたらもっと楽しかったと思います。

〈今後の取り組み〉

ブラジルに行きいろんな体験をしたことで、実際にやってみないとわからないことだらけだということを再認識することができました。今回学んだことをこれからの大学生生活に生かし日本国内にとどまらず、世界から学び視野を広げたいです。見たい、聞きたい、知りたい、やってみたい、好奇心を殺さずいろんなことに挑戦したいと思いました。

海外に行くならどこでも英語を使うので、日常会話はもちろん専門的な会話もできるように英語をしっかりと勉強しようと思います。もっと多くの人と話ができるようになりたいです。

ブラジルに行った時はたくさんの人に親切にしてもらったので、外国の人が日本に来た時は、私も親切にして日本を好きになってもらいたいと思います。